

父島小港海岸部のモモタマナ植栽

小笠原自然保護官事務所

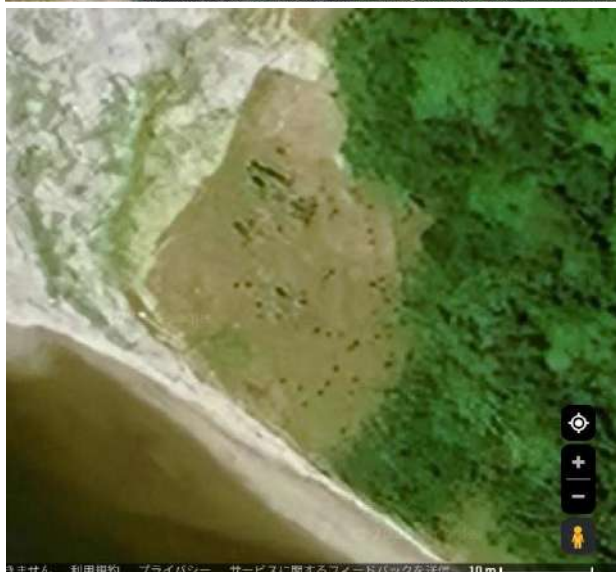
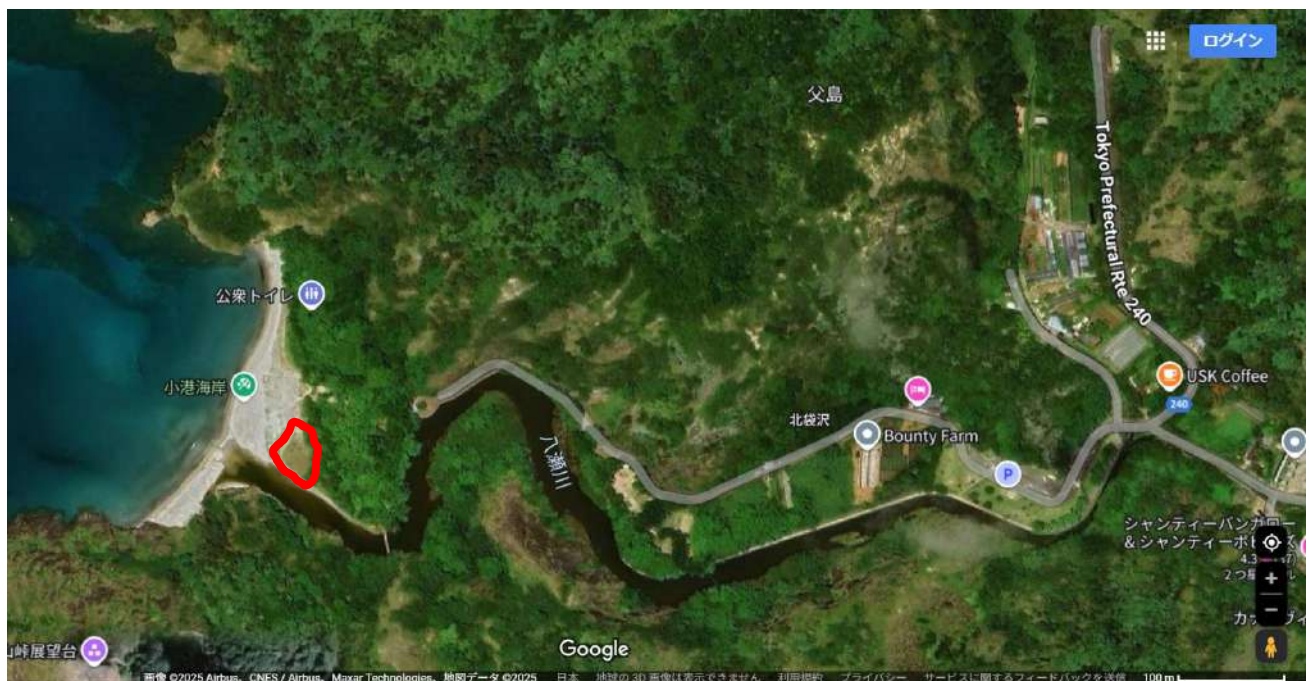
1. 目的

オガサワラオオコウモリの冬期の餌資源として重要なモモタマナ等から構成される在来の海岸林を回復させることを目的とし、ギンネムやモクマオウをはじめとする外来植物を駆除し、モモタマナ等の植栽を実施するもの。

2. 実施場所

父島小港海岸部

2013年オガサワラオオコウモリ保全調査委託報告書(東京都)で、冬期のモモタマナの利用実績があり、その重要性が指摘された場所。



3. 事業の実施状況

小港海岸においては、多くの植栽木がネズミの食害に遭い成長を妨げられる等の被害があったため、ネズミ対策を平成 27 年度以降継続している。平成 29 年度からは、苗木の保護に加え、殺鼠剤によるネズミの低密度化を図った。令和元年度は、これらの苗木にトリカルネットを設置した。

モモタマナの生長は本来早いですが、砂地の貧栄養のために生長が遅く、継続した管理を要する。タマナも同様に生長が遅い。また、モクマオウやギンネムのほか、近年はスナヅル等の広域分布種による被圧もみられる。

植栽地周辺の在来林におけるアカギ、ギンネム、シマグワの駆除をあわせて実施している。

4. これまでの実績

(1) 小港海岸部のギンネム及びモクマオウの駆除

(2) 小港における植栽

平成 26～29 年度 モモタマナ計 572 本、ハスノハギリ 2 本、クサトベラ 6 本を植栽

※その他、防風林とするためタマナ（テリハボク）200 個程度を播種（小笠原野生生物研究会）

平成 30 年度～ 一定数定着したため、新たな植栽は行わず管理のみ実施

令和 2 年度 初めて植栽したモモタマナが結実し、コウモリの食痕を確認

令和 3 年度 2 年連続で植栽したモモタマナが結実

令和 6 年 2 月時点

モモタマナ 87 本（うち結実個体 4 本）、クサトベラ 2 本、タマナ（テリハボク）40 本が定着



平成 27 年度事業開始時
モクマオウ等が繁茂



上左：食痕 上右：結実
下：令和 3 年 12 月の作業風景



令和6年10月